

反核 医師の会 ニュース

第53号
2013年7月20日(年3回発行)

Physicians Against Nuclear War (PANW)
核戦争に反対する医師の会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

2013年全国世話人会 開く



反核医師の会代表世話人 中川 武夫

2013年の反核医師の会・全国世話人会が、6月9日に開催された。会は、永瀬常任世話人から「核兵器禁止条約の交渉開始を求め、機運は高まってきたが、具体的な動きはない。また福島ではまだ放射能の排出が止まらず、汚染水も解決の糸口が見えない。子どもは、2年間で27人の癌とその疑いが見つかっている。核兵器廃絶、脱原



スライド報告に見入る世話人たち

2013年の反核医師の会・全国世話人会が、6月9日に開催された。会は、永瀬常任世話人から「核兵器禁止条約の交渉開始を求め、機運は高まってきたが、具体的な動きはない。また福島ではまだ放射能の排出が止まらず、汚染水も解決の糸口が見えない。子どもは、2年間で27人の癌とその疑いが見つかっている。核兵器廃絶、脱原

日本赤十字社と懇談

共同の取り組みができればうれしい



反核医師の会代表世話人 原 和人

2011年11月の国際赤十字代表者会議において、核兵器は国際人道法に違反し、核兵器は廃絶すべきであるとの決議は注目を集めている。この代表者会議には、日本赤十字も参加しており、この事に関して日赤本部で3月29日、懇談を行

った。この懇談には、日赤側から事務局国際部次長の菅井智氏、事業部国際部主査の大山啓都氏が参加し、PANWから、中川、原の共同代表が参加した。まず、中川代表の方から、核兵器は国際人道法に違反するという視点での運動が展開しており、国際赤十字の果たしている役割は大きい。是非、日本でも、日赤がそのような役割を果たしていただくように期待するし、PANWとしても共同の取り組みができれば嬉しい。また、最近、ICANパンフの日本語版を発行したが、日赤などでも、おいに活用していただきたい、と述べた。日赤からは、国際赤十字の会議は3段階に分かれて



日本赤十字社と懇談する中川(左から2人目)、原(左端)代表世話人

おり、第1段階は世界187社の連盟、第2が連盟に国際委員会が入った会議、トップは、各国の赤十字と政府が入る会議である。2011年の決議は、政府抜きで連盟の会議で決議された。その後、国際赤十字としてはオスロ会議を受け、6月には広島でフォーラムが行われ、11月に国際赤十字代表者会議がシドニーで開催される、との説明があった。日本赤十字としては、今まで、核兵器廃絶について、協議したり、訴えに対して行動を起こしてこなかった。

た。しかし、「決議」にあるように、国際赤十字のすべての力をもってしても、核戦争の犠牲に対応できない。各国の赤十字の活動は、その国の政府の立場に影響されるとともに、独自性をもっている。日本はアメリカの核の傘の下にあり、日本政府の「究極的核廃絶論」の中で、日赤として、どのような活動をすべきか、日本の様々な立場のみならずのご意見をお聞きしたいと考えている、と述べられ、今後、核兵器の廃絶のためにお互いに奮闘することを確認して懇談を終えた。

た。しかし、「決議」にあるように、国際赤十字のすべての力をもってしても、核戦争の犠牲に対応できない。各国の赤十字の活動は、その国の政府の立場に影響されるとともに、独自性をもっている。日本はアメリカの核の傘の下にあり、日本政府の「究極的核廃絶論」の中で、日赤として、どのような活動をすべきか、日本の様々な立場のみならずのご意見をお聞きしたいと考えている、と述べられ、今後、核兵器の廃絶のためにお互いに奮闘することを確認して懇談を終えた。

た。しかし、「決議」にあるように、国際赤十字のすべての力をもってしても、核戦争の犠牲に対応できない。各国の赤十字の活動は、その国の政府の立場に影響されるとともに、独自性をもっている。日本はアメリカの核の傘の下にあり、日本政府の「究極的核廃絶論」の中で、日赤として、どのような活動をすべきか、日本の様々な立場のみならずのご意見をお聞きしたいと考えている、と述べられ、今後、核兵器の廃絶のためにお互いに奮闘することを確認して懇談を終えた。

いが、積極的に運動を進めたい。」との開会の挨拶で始まった。代表世話人の中川から「2012年の反核医師の会活動のまとめと2013年の方針(案)」の提案があり、引き続き、伊方原発の再稼働を許さない愛媛地域の市民運動、原発被ばく問題プロジェクトの活動、韓国反核医師の会訪問の補足報告、2012年度決算と監査報告、2013年度予算案の提案があり討議が行われた。討議では来年度の福岡でのつどいに関する発言や、JPPNWとの関係、組織強化などについての質疑が行われた。各県では、学習講演会の開催やニュースの発行などが行われ、また、反原発や再稼働を許さない市民運動で中心的な役割を担ったり、福島や関東からの避難者の健康相談や健診活動などが行われていた。「核兵器の廃絶を求める運動を進めながら、原発事故による被ばくや避難者

の支援、新たに結成された韓国の反核医師の会などとの国際的な交流にも取り組んでいきたい。そのために、今年度の「つどい北海道」の開催地の福地から運動を進めて行くこと、とのまとめも含めて、活動報告などの提案が確認された。最後に、今年度の「つどい北海道」の開催地の福地

2011、12年のつどいでは原発事故がクローズアップされましたが、ICAN運動に呼応して核兵器廃絶を正面にかけ、原発や憲法改悪に通底する安保体制の問題も取り上げることになりました。メインテーマは「平和憲法なまら(IIすく)いいんでないかい 核兵器と原発ダメだべさ みんなでやればできるつしょ」と北海道弁丸出しとなりましたが、

キーワードはしっかりと入れたつもりです。企画もほぼ固まりました。1日目の記念講演は村田光平さん(元スイス大使)の「世界に学ぶ脱原発―地球の未来のために」、つづいて教育講演「核兵器廃絶への道すじ」として、黒澤満さん(大阪女学院大学教授)と中村桂子さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授)にお話しいただき、夜は懇親会で盛り上がりましょう。札幌在住のチェリスト土田英順さんの演奏などを予定しています。2日目は分科会で、被ばく問題と憲法問題の2つです。参加申込欄がついたチラシが届いていると思いますので、(核戦争に反対する医師の会のホームページからダウンロード可能)、どうぞお早めに申し込みください。なお、学生と一般市民は参加費無料としました。北海道の9月下旬は空気が澄んで、過ごしやすいつどいです。翌23日は祝日です。ぜひ郊外に足を伸ばされることをおすすめします。

ガンマ線は、透過性の強い電磁波なので、粒子であるα線やβ線に比べて、身体では、まばらにしか電離作用を起こさない。国は、原爆による被害で、初期放射線による影響は爆心地から2kmまでで、残留放射線の関与は誤差範囲内と言っている。しかし、黒い雨などの放射性降下物の影響はβ線が主であり、内部被ばくの影響を無視している。国際放射線防護委員会(ICRP)は、ガンマ線とβ線は同じ程度の損傷を与えると言っているが、β線は継続的に被ばくするのでDNA損傷は非常に大きくなる。▼福島原発事故は、慢性的な全身被ばくであり、外部被ばくと内部被ばくを含んだものとなる。福島で問題となったヨウ素131は、β線を出し同時にガンマ線も出す。また、半減期が短いので短期間に多くの放射線を出す。セシウムもまた崩壊の過程で、ガンマ線とβ線を出す。ヨウ素131は子供では、甲状腺に多く取り込まれる。そして、チェルノブイリの研究では、セシウムは、甲状腺、骨格筋、小腸、心筋の順に蓄積される。ホルボディカウンター検査では、ガンマ線しか測定できないので、β線による内部被ばくの状況は分からない。▼福島県の検診時には、ヨウ素131は消えていたのに、セシウムのガンマ線だけ調べたことになる。国連の人権委員会は報告書で、内部被ばくの検査を拡大するよう勧告している。

「反核医師のつどい」 9月は涼しい北海道へお越しください



反核医師の会常任世話人 現地実行委員会事務局長 塩川 哲男



- 日時 2013年9月21日(土) 午後1時から
22日(日) 午後1時まで
- 場所 1日目: アスティホール
2日目: 札幌全日空ホテル
- 参加費 医師・歯科医師 5,000円
医療関係者 2,000円
医学生・一般 無料

から運動を進めて行くこと、とのまとめも含めて、活動報告などの提案が確認された。最後に、今年度の「つどい北海道」の開催地の福地

から運動を進めて行くこと、とのまとめも含めて、活動報告などの提案が確認された。最後に、今年度の「つどい北海道」の開催地の福地

から運動を進めて行くこと、とのまとめも含めて、活動報告などの提案が確認された。最後に、今年度の「つどい北海道」の開催地の福地

ガンマ線

ガンマ線は、透過性の強い電磁波なので、粒子であるα線やβ線に比べて、身体では、まばらにしか電離作用を起こさない。国は、原爆による被害で、初期放射線による影響は爆心地から2kmまでで、残留放射線の関与は誤差範囲内と言っている。しかし、黒い雨などの放射性降下物の影響はβ線が主であり、内部被ばくの影響を無視している。国際放射線防護委員会(ICRP)は、ガンマ線とβ線は同じ程度の損傷を与えると言っているが、β線は継続的に被ばくするのでDNA損傷は非常に大きくなる。▼福島原発事故は、慢性的な全身被ばくであり、外部被ばくと内部被ばくを含んだものとなる。福島で問題となったヨウ素131は、β線を出し同時にガンマ線も出す。また、半減期が短いので短期間に多くの放射線を出す。セシウムもまた崩壊の過程で、ガンマ線とβ線を出す。ヨウ素131は子供では、甲状腺に多く取り込まれる。そして、チェルノブイリの研究では、セシウムは、甲状腺、骨格筋、小腸、心筋の順に蓄積される。ホルボディカウンター検査では、ガンマ線しか測定できないので、β線による内部被ばくの状況は分からない。▼福島県の検診時には、ヨウ素131は消えていたのに、セシウムのガンマ線だけ調べたことになる。国連の人権委員会は報告書で、内部被ばくの検査を拡大するよう勧告している。

2013年全国世話人会公開講演

福島原発事故から2年3か月、放射能汚染の実態は

反核医師の会常任世話人 大場敏明

6月9日の全国世話人会の午後公開講演として、獨協医科大学の木村真三准教授に「福島原発事故から2年3か月、放射能汚染の実態は」の講演をいただいた。その要旨を紹介する。



最近の福島県甲状腺調査の結果について、17万4千人の内18歳以下で甲状腺癌の診断確定者が12人、癌疑いは15人になった。福島県

立医大は、チェルノブイリ原発事故で癌がみつかったのが、事故後4〜5年以後だった。それ以前に発症した甲状腺癌は、放射線の影響は考えられないと説明している。演者は事故後、ウクライナと福島県で調査研究をしているが、ウクライナの医師もこれは「スク

きらかになつていない。事故前の甲状腺癌の組織所見で、被災3カ国を含めた欧米と日本は違いがあるとの報告がある。食生活の違いもある。スクリーニング効果で決めつけるのは問題である。

疑わしければ、罰するのが防災認定の考え方である。原発健康障害もその考え方を取り入れるべきだ。ウクライナではカルテは50年保存である。二本松市では今後の健康災害から守るために全市民に健康手帳をつくって配布しこれに内部被曝、外部被曝のデータを記入して保存している。

ぜい日本でも50年カルテ保存を実現させてほしい。放射線汚染の問題は、現場でデータをささなければ何もない。皆が市民科学者として知識を高めて戦っていく必要がある。

シーベルト(Sv)とベクレル(Bq)とコンプトン効果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

て、身体全体の被曝量をはじきだすのがSvなので難しい。教科書的には放射線の直接影響や細胞レベルの間接影響でDNAを傷つけるのであるが、これではα線がγ線の20倍の意味は説明できない。コンプトン効果とは、分子から電子を吹き飛ばす事によって身体が傷つくという理解である。γ線、β線は分子から一発の電子をはぎ取るが、エネルギーの強い電子の1万倍の重さをもちα線は、一発の放射線の電子を吹き飛ばす効果をもち、

もつ。双葉町の帰還時期は、モニタリング・ポストからの平均線量からの計算で、一番高線量の場所が、安心して住める線量まで下がる時期(町が分断されないために)と考えると160年後だ。しかし双葉町のホットスポットでは線量は、80μ〜100μSv/hあった。この濃淡の汚染を考えると帰還時期は250年後〜500年後にもなる。だが国は7年後くらいにも全員を帰還させると言っている。誰のための行政か、誰のための研究かが問われている。

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

果について、Bqは放射性物質が1秒間に放射線を出す数だ。Svは人体に及ぼす単位と言われるが、意味がはっきりしない。Svは以下の二つの要素で決定する、①放射線の種類によって影響が違ふ(α線は、γ線の20倍の影響)、②各臓器によって感受性が違ふ。そこで、臓器ごとの被曝量を出し

オスロでの核兵器の人的影響に関する市民フォーラム(2013.3.1-3.2)及びノルウェー政府主催会議(2013.3.4-5)に参加して

大阪・阪南医療生協診療所所長 眞鍋 穰



表記の会議がオスロで開かれるに際し、被団協、反核法律家協会、民医連の三者で共同して特に被爆者の被爆体験及び原爆医療訴訟を通じて明らかにされた、被爆直後の悲惨さと長期に及ぶ健康被害の2点から核兵器の非人道性を明らかにするという観点で文書を作成し、市民フォーラムと政府主催会議に参加しました。田中被団協事務局長は日本政府代表として、私



政府会議(上)と市民フォーラム(下)の様子

は世界NGO代表50人枠に入り政府会議に正式参加することができました。

市民フォーラムは3月1〜2日に70カ国から500人以上が参加し、核兵器禁止条約をどのように実現するか、の議論が国際政策、軍事専門家に加えて、赤十字社と国連代表も参加して行われました。核兵器の基本的なこと、広島・長崎の被害、核戦争の環境への影響などが専門家から報告され、人道法との関連などについて議論されました。田中被団協事務局長は全体会議で被爆体験について5分ほど話され、大きなインパクトを与えた印象でした。私

は、スピーカーズコーナーで、反核法律家協会の大久保氏などと一緒にそれぞれ5分ほど話しました。原爆症認定訴訟のことは知られておらず、「新しい報告」と、ヨーロッパの活動家から感想を述べられました。ノルウェー政府主催「核兵器の人的影響」会議は127カ国から500人以上が参加して行われました。核保有国の参加はインドとパキスタンのみでした。日本からは、吉田軍縮課長と課員、田中被団協事務局長、朝長長崎原爆病院院長が正式代表として参加しました。朝長氏が、全体会議の核兵器の医学的影響

と題して講演し、田中氏は日本政府代表として被爆体験を話しました。日本政府の代表として被爆者が話したのは今回が初めてで画期的なことです。核兵器非核地帯の諸国は、核兵器禁止条約を作るべきとの発言が相次ぎました。国連加盟諸国の過半数が参加したことでも会議は成功との評価が一般的でした。今回はメキシコで開催します。日本政府は最後に軍縮課長が発言しましたがNPTの枠内の発言に留まりました。NPT再検討会議の間に核兵器禁止条約にむけた動きが世界の潮流になるうとして

た。この会議の成果をもとに4月に開かれたNPT再検討会議準備会議で、核兵器の非人道性を明らかにする南アフリカが提案する声明に70カ国が賛同、日本政府は署名せず、日本がアメリカの核の傘に在ることの犯罪性と、北アジア非核地帯の実現にむけた取り組みの重要性が浮き彫りになったように思います。世界が今変わるうとして、日本が今の対応について、もっと日本国民に知らせ、核に対する態度を転換させる私たちの責務も痛感した会議でした。

グローバル原発企業が誕生



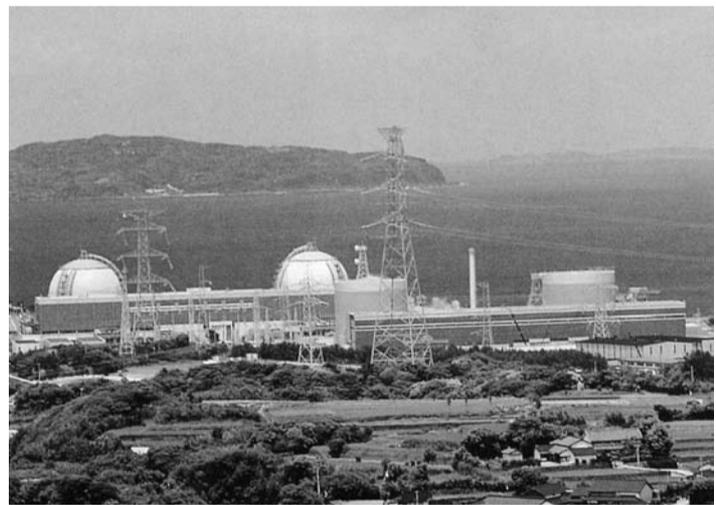
反核医師の会世話人 北川喜久雄

安倍総理は原発輸出を成長戦略の一つと考えて、インド、トルコなどと原子力協定を結んだ。電力会社と、原発メーカーの利益を考えたものだ。国際原子力開発株式会社(グローバル原発企業)が設立された。北海道電力株式会社、東北電力株式会社、東京電力株式会社、中部電力株式会社、北陸電力株式会社、関西電力株式会社、中国電力株式会社、四国電力株式会社、九州電力株式会社、株式会社東芝、株式会社日立製作所、三菱重工業株式会社、株式

会社産業革新機構が出資し、資本金2億円の会社である。産業革新機構には政府が財政投融資特別会計から出資(2520億円)し、27社の民間企業も出資(140億円)している。

民間企業とは、旭化成株式会社、大阪瓦斯株式会社、キヤノン株式会社、シャープ株式会社、株式会社商工組合中央金庫、住友化学株式会社、住友商事株式会社、住友電気工業株式会社、ソニー株式会社、武田薬品工業株式会社、東京電力株式会社、株式会社東芝、トヨタ自動車株式会社、日揮株式会社、株式会社日本政策

投資銀行、パナソニック株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、丸紅株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、株式会社三井住友銀行、株式会社三菱ケミカルホールディングス、三菱重工業株式会社、三菱商事株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行、GEジャパン株式会社、JX日鉱日石エネルギー株式会社、第一原発事故の補償金がどれくらいになるか検討もつかない状況で、海



で三菱重工が損害賠償を求められている。原発に何らかのトラブル、過酷事故等が発生した時、その補償はどの国でどうなるのか。当然、国際原子力開発株式会社がするであろう。その補償の原資をどうするか。

電力会社と政府が関与しているの

料金と税金で賄うことになる。福島第一原発事故の補償金がどれくらいになるか検討もつかない状況で、海

また、使用済み核燃料を日本が回収する約束をして他国の原発メーカーと競争するかもしれない。核の平和利用で原発を売ることは、核兵器の核拡散に協力することになる。

5月末の国連科学委員会は福島事故では住民の健康被害は無かったと表明し、日本政府も健康被害はないとしている。甲状腺のガンや腫瘍は丁寧に調べてたまたま見つかった「スクリーニング効果」と放射線の影響を否定している。事故の被災者への補償金を少なく見積もり、健康被害もない、日本の原発は再稼働も出ると世界に宣伝すれば、原発を買ってもらえると思っている。グローバル原発企業は国民の健康や経済負担を食い物にし、安倍総理の言う国益など考えず、企業益のみ追求する。

東京・御茶ノ水駅前で街宣



マイクを握る原代表世話人

6月8日(土)、翌日 訴える街頭宣伝を行いました。原代表世話人が反核医師の会では、東京・御茶ノ水駅前「核兵器廃絶・原発ゼロ」を量に存在している核兵器を廃絶することが被爆国日本の使命であることや、依然として大量の放射性物質を放出し続けている福島原発をよそに政府は原発の再稼働や原発輸出を狙っている危険性を訴えました。「核兵器反対」と印刷した風船を配布しました。学生や子ども達にとっても喜ばれました。

時事モニター

第9回

憲法無視の安倍政権

安倍政権は「改憲」実現のために、憲法をどう変えるかを一時棚上げして、「96条改憲」を行わせる迂回作戦をとりました。

ところが、安倍首相の思惑は外れて、「改憲」論者も含む多くの国民の反発に直面しました。安倍首相が「反対意見が多いのも事実だ」(参院予算委)と発言するなど推進派はトーンダウン発言。しかし、目論見がはずれたとはいえ、「改憲」勢力の執念はかたくないものです。「改憲」反対の運動を緩めることはできません。

重大問題の一つは政府が国家安全保障会議(日本版NSC)設置法を国会に提出したことです。国家安全保障問題の決定を首相を議長と

員長には会議内容に閣下として守秘義務が課せられていきます。これでは国の安全保障という重大事項について国会の審議の道も閉ざすことに

海・空自衛隊は米国西海岸で日米共同訓練を行っています(本稿執筆中)。この共同訓練「ドーン・ブリッツ(夜明けの電撃戦)」は離島防衛・奪還訓練とされ、米軍機オスプレイを海上自衛隊の艦船に着陸させ、格納庫にも入ることを確かめました。日米共同で上陸訓練を行い、自衛隊が米軍とともに「戦争」を行う体制を訓練するも

この「立法改憲」は「解釈改憲」と軌を一にするものです。「明文改憲」を拒否するとも、なし崩し「改憲」も断固として拒否することが必要です。

(2013.6.20 TH)

「ICAN新パンフ」好評です!



反核医師の会では核兵器廃絶日本NGO連絡会と共同で、ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)が企画し、IPPNW(核戦争防止国際医師会議)とピースポットが作成したパンフ「壊滅的な人道的被害」の日本語版を発行しました。

これは「核兵器は国際人道法に違反する」との世論を高めて、人道法に違反する対人地雷禁止条約などと同じように核兵器の使用を条約として禁止するためのものです。

同パンフは1冊60円で、ICANの旧パンフ(ICAN概要)を1冊につき1冊無料進呈します。

各地の反核医師の会から

愛知

元駐スイス大使

村田光平氏講演会 開く

核戦争に反対する医師の会
愛知事務局長 土井敏彦



去る5月18日(土)、「核戦争に反対する医師の会・愛知」は、31周年記念として、名古屋市内の愛知県保険医療協会・伏見会議室にて、「原子力と日本病」の題で、元駐スイス大使で当地の東海学園大名誉教授・村田光平氏の講演会を開いた。予想をうまわまる111名の参加者があり、原発への関心、氏への注目が示された講演であった。

村田氏は、東大法学部卒業後外務省に入り、セネガルやスイスの大使等を歴任した。チェルノブイリ原発事故が大きな契機となり、



講演する村田光平氏

話には、まず「未来の世代の代表」と自己紹介し、「天の摂理」を説く。「天の摂理」だと宗教的色彩があるので、「地」を入れ、哲

学思想と説明。要するに、歴史の法則・真理であり、原発は天地の摂理に反するものだと強調した。チェルノブイリ事故後、世界は脱原発に方向転換したのに、日本だけが原発推進を続けている。原発再稼働や輸出はもつてのほか。福島4号機の危機的状況を、軽視している。東電まかせにせず、国の責任で処理すべき。オリンピック招致するような場合ではないと強調。

また、福島事故の教訓として、経済重視から生命重視へ転換しなければならぬと説き、「父性文明」と「母性文明」の説明を加え、世界は父性文明の潮流から母性文明の転換が必要だと話す。父性は「力」、母性は「寛容・調和」を基調とする概念。言わんとすることは理解できるが、様々に解釈でき、現実どうしたらいいのかわかりにくい。

石川

核兵器廃絶国際行動デーにとりくんで

核戦争を防止する石川医師の会
代表世話人 白崎良明



私たちはICANのよび

かけのnuclear abolition dayに毎年取り組んできているが、今年は6月9日に行つた。

『はだしのゲン』にひかれて若い人の参加も多く、中沢さんの話を直接聞いて、「改めて戦争は嫌だし、原爆はなくなればならない」「はだしのゲン」

『はだしのゲン』にひかれて若い人の参加も多く、中沢さんの話を直接聞いて、「改めて戦争は嫌だし、原爆はなくなればならない」「はだしのゲン」

『はだしのゲン』にひかれて若い人の参加も多く、中沢さんの話を直接聞いて、「改めて戦争は嫌だし、原爆はなくなればならない」「はだしのゲン」

『はだしのゲン』にひかれて若い人の参加も多く、中沢さんの話を直接聞いて、「改めて戦争は嫌だし、原爆はなくなればならない」「はだしのゲン」

学生会社

今の時代を生きること、社会を変えることを考える

大阪大学6年 東條文明



豊かなはずのこの国で、孤独死や餓死があるのに生活保護は引下げられ、復興も見えぬまま原発再稼働はくすぶり、戦の恐怖を知る島に米軍基地がある。明日も分からぬまま憲法改正が取り沙汰される。私はどんな時代にいるのだろうか。

あの事故が起こるまで、デモもストライキもニュースの出来事だった。それが目の前に現れたのだ。廃炉を叫ぶ有象無象が日章旗を掲げる人々の脇を進んでいった。啞然としながら私は既に渦の中にいた。

私は戦争を知らない、安保もバブルも知らない。シラケより最早ゆとり、経済成長は信じられなくても不況はよく知っている。受験を生き残りネットやゲームに溢れる何かを無駄遣いする世代だ。

その時私はある知人を通して浮かべた。福島に戻ることとも適わず、国に頼ることもできないならば、デモにも冷やかな彼の為に私は何ができたか、その困惑は生の貧困に会ったあの時に似ていた。

社会の仕組みを変える仕

社会の仕組みを変える仕

社会の仕組みを変える仕

社会の仕組みを変える仕

午前11時から、繁華街のデパート前で白衣の街頭宣伝を行い、ICANパンフを渡しながら、非人道兵器である核兵器廃絶に向けての交渉を早急に開始するよう求める国際署名に取り組んだ。

高校生や風船を求めの子供たちの若い母親が署名に多く応じてくれた。

午後からは中沢啓二さんの被曝証言をつづる『はだしのゲン』を見たヒロシマを鑑賞し、その後にアーサー・ビナードさんの「炉はつづくよ、どこまでも?」と題した講演を聞いた。当日券購入者が100名近くあり、予想を上回る320名の参加で250名分用意した椅子や、資料を急遽、追加しなければならなかった。



講演するアーサー・ビナード氏

アーサー・ビナードさんの話は文学者・詩人として、自分の立ち位置をはっきりさせて、言葉の意味をしつかり理解し、使うことが重要だと前置きし、核兵器のために必要なプルトニウムを生み出すものとして用意された原爆の本質をつかむことが重要だと述べた。

そしてnuclear reactorは「原子炉」と訳されているが、本来は「核分裂反応装置」と理解すべきである。原子力発電所と訳されるnuclear power plantは「核分裂反応装置を利用して蒸気を作り、発電する工場」と理解すべきであり、言葉のペテンに騙されてはいけないと強調された。

当日は「講演に感動し、自分の立ち位置を明確にして言葉を理解し、使うことの重要性を学んだ」と80通を超える感想が寄せられた。

今回の企画は『はだしのゲン』をひろめる会と共催であったが、若い人の参加や、詩人の会などとの新しいつながりも広がり、核兵器廃絶の運動を進展させ、引き継ぐうえで大きな役割を果たした。

書評

北海道・勤医協伏古十条クリニック
医師 小泉茂樹

2003年4月に始まった原爆症認定集団訴訟は全国17地裁で原告306名に上り、2011年12月に終結するまで8年余りの裁判闘争になった。この間に原告60人以上が死亡するというまさに命をかけた闘いであった。本書は、この訴訟を医学的に支援した全国43名の医師たちの記録をまとめたものである。

日本被団協から集団訴訟の協力を依頼された全日本民医連は支援を決定し、被爆者医療を行ってきた医師を中心に支援医師団が構成された。当初は戸惑い、不安があつたが、被爆者に寄り添い、医学論争の覚悟を決めるに至った経緯は日本被団協と弁護士団からの寄稿と座談会で知ることができ

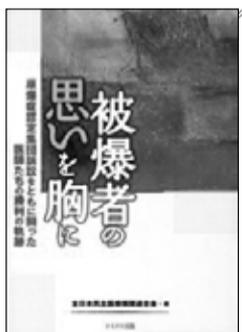
支援医師団は渾身の力を振り絞って歴史的な裁判闘争に向き合うようになるのだが、統一意見書の作成が大きな鍵となった(資料に全文収載)。約1年をかけて作成された統一意見書は4つのポイント(被爆の実態を重視、放影研のLSS(寿命調査)やAHS(健康調査)などの文献検索、DS86と原因確率の批判、「あとを生き残るべき認定条件」のまとめ)を示し、今後の被爆者医療の指針となる内容を含んでいる。作成過程で原告の訴える多様な疾患の放射線起因性について次第に確信をもつようになつた経緯も読み取られる。

全日本民医連医療機関連合会 編 被爆者の思いを胸に

原爆症認定集団訴訟をともに闘った医師たちの勝利の軌跡

集団訴訟は31判決でほぼ全面勝利の形で終結し、腫瘍(悪性、良性)のほか多数の非腫瘍性疾患の放射線起因性を認められた。支援医師団も裁判の過程で自己成長し、高度な医学闘争を続けることができたのだ。が、本質は弱者に寄り添う民主的・正義の闘いであつたことが本書を読むと理解できる。

巻末に資料が豊富に収載されているので学習会などの参考になるであろう。原爆症認定訴訟に携わった医師たちの貴重な記録として多くの人に読んでいただきたい。



(かがわ出版) 2500円+税